

連携・協働のカ・タ・チ

令和2年8月28日発行 福島県教育庁会津教育事務所



活躍する「学校支援コーディネーター」

今回は、会津美里町教育委員会で、「学校支援コーディネーター」として御活躍の山口健氏に、その取組等について取材しましたので紹介します。

Q1 学校支援コーディネーターとしての職務内容を教えてください。

会津美里町教育委員会教育文化課に所属し、学校からのボランティア要請をもとに、学校支援ボランティアの皆さんを派遣し応援します。また、学校に協力してもらえる地域の団体に声をかけて学校と結び付けることもしています。学校支援と地域コーディネーターの役割も担っています。4月の学校訪問による学校の要望・課題の聞き取り、2月のアンケートによる振り返りも大切にしています。支援対象は、こども園(町内4園)、小学校(4校)、中学校(3校)、大沼高校、町内の放課後子ども教室です。

Q2 どんなやりがいや喜びを感じておられますか。

やりがいを感じるのは、学校の要望に応えられ、子どもたちの喜ぶ姿や真剣に学ぶ姿を見ることができたときです。そのことが協力してもらえたボランティアの方のやりがいにつながり、学校と地域、ボランティアがWin×Winの関係になれるときです。

Q3 一番苦労されていることはなんですか。

ボランティアの方々にやりがいを感じて活動していただくこと。学校からの要請に、十分に応えられる活動になったかということ。子どもたちの学習意欲の向上につながったか、などに配慮することに、一番苦労しています。

Q4 これまでの成果と今後の課題について教えてください。

成果は、学校、子どもたち、保護者、ボランティアともに満足できる活動ができるようになったことです。例として、こども園では、自然遊び、自然観察の活動。小学校は、家庭科ミシン指導、書写指導等、中学校は夏休み・冬休み自主学習会、民俗芸能への取組等です。教育課程に組み込まれるようになりました。

課題は、高田、本郷、新鶴地域のコミュニティ・スクールへのスムーズな移行です。いかに学校の運営ビジョンをみんなで共有し合って価値ある活動につなげ、お互いがWin×Winの関係になれるかです。

Q5 今後の抱負をお聞かせください。

幅広い地域の人材をボランティア組織として取り込み、適材適所で常に活用できるようにすることです。「ふるさと」の歴史を学ぶことで、地元の魅力を発見し、それを他の地域へ伝えることができる子どもたちを増やすために、実際に現地を見学したり、よさを自分の目で確かめたりすることができる体験活動を軌道に乗せていきたいです。具体的には、町で作成した『知ってる？会津美里町の歴史』の有効活用による体験的学習です。



学校と地域をつなぐ「学校支援コーディネーター」の山口 健氏



この取組から学ぶポイント！



学校支援コーディネーターが、学校の先生方からの要望や授業の目的等について打合せを行い、有意義な活動になるように連絡・調整をしています。学校支援コーディネーターが配置されることで、地域と学校の連携・協働活動を効果的・効率的に展開することができます。

《参考》平成29年3月の社会教育法の改正では、地域住民等と学校の連絡調整等を行うコーディネーターを「地域学校協働活動推進員」として教育委員会が委嘱することができることとし、法律に位置付けられた存在となりました。